

溶接ロボットの品質高める周辺ソフト

オフラインで高い機能を発揮

インタビュー

ゼネシシプロダクトマーケティング部長 佐原宗樹氏



要がある。対してパソコン上で動作プログラムを作成し、ロボットへ転送するオフライン・オフという以前に概念が異なる。

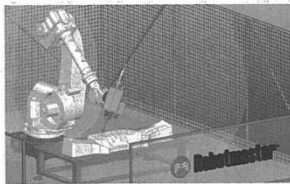
「間隔15分で6カ所の点付けを行う」など複雑な操作の演算も容易だ。加工が複雑になる、ワークの位置・ロボットのサイズ・アームのリーチ・ジョイントが回転するリミット角など、適用する性能が同ロボット制御ソフトには入っており、ロボットの動作を最適化しているのが、データをロ

また、最適化した情報を更に自動演算する「アームとワークの位置が近すぎて、ロボットが動かないような場合」にはアラートが表示され、マウス操作でデータを見ながら再演算を行うことができる。データは項目ごとに場合分けされ、緑(適正)や赤(アラート)で瞬時に見分けられるので、初心者でも扱いやすい。オンラインティーチングの場合、現場で長い納期が2日ほどと短縮され、高効率化に、ロボットに欠かせない加工専用データを加え人員の再配置も可能となる。

また、当社が30年前から販売しているCAMソフト/CAEソフト/3Dデータ活用したソフトウェアの設計に特化したソフトウェアだ。3Dデータに対応しており、RobotmasterはCADの取り込み精度も高く、標準的なCADはほぼ100%、それ以外の規格であっても大部分を受け取り可能のため、モデルデータの修正は必要ない。今後とも、Robotmasterのようなオフライン技術は、ロボット化が進むほど重要性は増していく。

当社はオフラインティーチングのロボット制御ソフト「Robotmaster」を販売している。同ソフトにワンパスずつではなく、1列3パス分のデータを入力し、オフラインで即時に行

その上でデータを再生して微調整が必要となるため、ティーチング中やロボット運用開始後の修正の際に、生産ラインを停止する必



「Robotmaster」の画面